

エリア最前線 中国版

▶ 中国支局 ◀

☎ 082(223)2535
FAX 082(223)1866

ハローズ

農水省食料局長賞を受賞

食品産業もつ
たいない大賞 フードバンク提供促進

中国・四国地方で食品スーパー(SM)を展開するハローズは、福祉施設やボランティア団体に食品を提供する活動である「フードバンク」と連携し、店舗で出た廃棄せざるを得ない食品を提供する活動を2015年から推進し「食品ロス」の削減を進めている。同社は「フードバンク」と契約を締結した子ども食堂などの支援団体が、近隣のハローズ店舗に直接食品を引き取りに向かうという、食品を扱う施設と近隣の店舗を結び付け、直接やり取りする「ハローズモデル」という仕組みを構築し展開している。このほど、こうした活動が公益財団法人食品等流通合理化促進機構主催の「平成30年度・第6回もつたいない大賞」で、最優秀賞に次ぐ農林水産省食料産業局長賞に選ばれ表彰された。同社はこの活動を、周辺SMだけでなく、全国のSMとの連携も目指し、事業の質の向上や量の拡大を目指している。

モデル構築で連携拡大へ

提供する商品はすべて「破れるなど店頭で販売」中心で、当然消費期限が汚れたり、包装が「できなくなった商品」が残っている商品だ。

(浜岡謙治)

そのほか、トリミングもしくは加工すれば食べることが可能な青果や精肉加工品なども提供している。

現在、食品を提供している団体は、ハローズ出店エリア全体のフードバンク11団体や子ども食堂約30団体、障がい者就労支援施設A型・B型5団体、岡山県岡山市や赤磐市、広島県尾道市などの社会福祉協議会、ホームレス支援団体などだ。15年に岡山市のフードバンク岡山から

提供が始まり、16年からは岡山県内で大学などを運営する学校法人が行っている生活困窮家庭に食料を支援する活動にも提供を開始するなど、現在も展開の幅を拡大させている。17年10月から岡山県倉敷市を中心にフードバンクを展開するフードバンクアリスの稲見佳子代表もハローズ店舗からの食品提供を毎日受けている。稲見代表は長年、食品の廃棄物を減らす活動を行ってきたこともあり、その縁で現在はハローズだけでなく、天満屋ストアや両備ストア、山陽マルナカ、ニシナなどのSMをはじめ、山崎製パンや米飯加工の企業からも提供を受けている。また、障がい者の就労継続支援A型事業所を運営している関係で、引き取りのスタッフや引き取った食品を集める倉庫も確保できているとのこと。

稲見代表は「スーパーさんから『ありがとう』といわれ、取りに来て下さる方からも『ありがとう』といわれる。私たちも皆さんに『ありがとう』といいい、どこに行っても『ありがとう』ばかりです」と笑顔だ。ハローズでフードバンク活動を推進する太田光一商品管理室長も「このワインウィンの関係をもっと広げていきたい」と話す。そして「食品ロスはまだまだ多いが、安全面などの理由でまだ二の足を踏んでいるSMも多いのが現状。しかし、2万店といわれている全国のSMが取り組めば、それに伴う廃棄コスト削減額は大きいし、それ以上に支援を求めている方々への大きな力にもなるなどメリットも多い。その意味でも、今以上にしっかりと持続可能な仕組みづくりに引き続き取り組んでいきたい」としている。

提供商品の一例(写真右)、ハローズ店舗で食品を引き取る稲見佳子代表(フードバンクアリス) ㊸

